

＜2014 日本先史文化研究所研究成果公開シンポジウム＞

縄文文化の繁栄と衰退

— 「縄文時代後晩期停滞説」の矛盾と展開 —



日時:2014年11月15日(土)

10:00 ~ 17:00

場所:明治大学駿河台キャンパス

グローバルフロント1F グローバルホール

定員120人(一般参加可)参加費・資料代無料

問合せ:明治大学日本先史文化研究所

(03-3296-1866)

＜開催趣旨＞

これまでの縄文文化の変遷は、中期を頂点とした文化の繁栄が、後晩期に気候寒冷化などの要因で停滞し、稲作農耕社会へと移り変わったと説明されてきた。

しかし、近年の研究では後晩期に長期継続型の遺跡が相次いで発見され、社会の複雑化が認められる。さらに動・植物考古学の進展もあり、不明瞭であった後晩期の生業や地域社会の実像が明らかにされつつある。

本シンポジウムでは、近年の進展の目覚ましい研究の成果から、これまでの縄文時代観の再検討をおこないたい。

日 程

- 9:30～ 受付開始
- 10:00～10:10 開会あいさつ 事務局
- 10:10～11:10 基調講演 阿部芳郎 「縄文時代後晩期停滞説」の矛盾と展開
- 11:10～11:40 発表1 樋泉岳二 「動物資源利用からみた後晩期の特質」
- 11:40～12:10 発表2 佐々木由香 「植物資源利用から見た後晩期の特質」
- 12:10～13:10 <昼休み>
- 13:10～13:40 発表3 中澤道彦 「栽培植物の導入とその多様性」
- 13:40～14:10 発表4 谷畑美帆 「骨病変化からみえる後晩期の様相」
- 14:10～14:40 発表5 米田 穰 「古食性から見た後晩期人の特質」
- <誌上発表 横山祐典 「縄文時代の環境変化」>
- 14:40～15:00 休憩
- 15:00～16:50 討論
- 16:50～17:00 閉会のあいさつ 事務局

